

2018. 8. 3. 第50回日本医学教育学会大会
口演13 「地域医療教育2」

地域枠学生の夏季地域実習のありかたについて

○山野貴司¹⁾、北野尚美¹⁾、上野雅巳¹⁾、村田顕也²⁾、羽野卓三³⁾、松本政信⁴⁾
永井尚子⁴⁾、雑賀博子⁴⁾、土生川洋⁴⁾、池田和功⁴⁾、向井元裕⁵⁾、宮下和久⁶⁾

- 1) 和歌山県立医科大学 地域医療支援センター
- 2) 和歌山県立医科大学 教育開発センター
- 3) 和歌山県立医科大学 みらい医療推進センター
- 4) 和歌山県保健所長会
- 5) 七川診療所
- 6) 和歌山県立医科大学

筆頭発表者のCOI開示

筆頭発表者氏名：山野 貴司

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

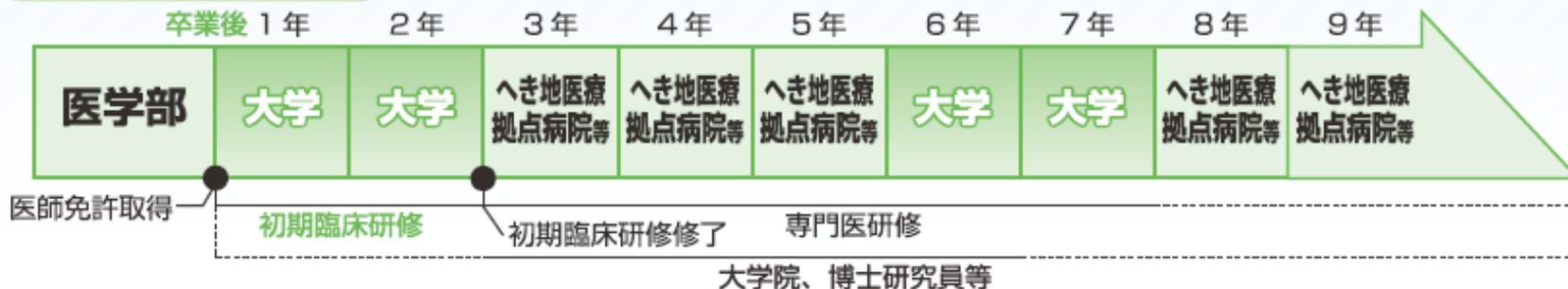
背景：和歌山県立医科大学の地域枠について

地域医療枠（募集人員10名）

プライマリ・ケアを実践し、高い総合的診療能力を有する医師及び医学研究者を育てます。

和歌山県から**修学資金**（※）が貸与される募集枠で、卒業後9年間のうち、5年間はへき地医療拠点病院等を中心に研修を行います。

基本モデルコース



県民医療枠（募集人員20名）

和歌山県の地域医療に携わるとともに、国際的にも医療・医学のリーダーとして活躍できる人材を育てます。

卒業後9年間のうち4年間は、地域の中核的役割を果たす県内公的病院で研修を行います。

基本モデルコース



地域枠学生の夏季実習

2011年から2016年まで

✓ 地域医療枠学生対象

毎年夏期休業日に夏季実習を実施

- ・1-3年生 集団県内病院見学(1日間)
- ・4-5年生 県内診療所病院実習(2日間)

目的

- ✓和歌山県立医大地域医療枠学生は、2011年より夏季地域実習を行っている。
- ✓主に移動は借り上げバスで、レポート作成は行わず、事務側が企画した受け身の実習内容であった。
- ✓2017年の夏季実習から、学生主体の参加型実習に変革し、社会性を養うための機会と位置付ける。

方法

✓2017年度夏季実習を、地域医療を担う医師を育成することが目的のひとつである自治医科大学の夏季実習に準じ、以下の内容で変更した。

1. 1～3年生は過去には大人数で病院見学をする内容だったが、より個別の実習を行うために、保健所実習を行う。
2. 4～5年生の病院診療所実習は、自分で病院や診療所に電話連絡をして訪問先との事前調整を行い、実習内容を事前に把握し、自主的に行動するように促す。
3. 移動は貸バスを手配せず、すべて公共交通機関のみで行う。
4. 既定の内容(施設概要、実習内容、考察、謝辞の4項目)に沿った実習報告書、各関係部署へのお礼状を作成する。

結果

✓保健所実習（和歌山県内5保健所）

対象者（1-3年生）の57%（12/21）が参加した。

✓病院診療所実習（和歌山県内11施設）

対象者（4-5年生）の94%（16/17）が参加した。



保健所実習



病院診療所実習

結果：実習報告書

- ✓参加学生は全員期限内に報告書とお礼状を完成させた。
- ✓地域医療支援センターは各学生が作成した実習報告書を冊子にまとめ、学生の活動を可視化させて施設の担当医師にフィードバックするとともに、彼らの業績として位置付けた。



10 七川診療所



所在地 和歌山県東牟婁郡田辺市下藤378

診療科目 内科、外科

和歌山県立医科大学医学部地域医療科5年生 新村 真哉

1. 実習施設とその地域の概要
七川診療所は和歌山県東牟婁郡田辺市、紀伊半島の東端部に近い半島部に位置する町である。市田川の人口・世帯数は、人口2,811人(平成29年9月1日現在)、世帯数1,427人(平成29年9月1日現在)であり、昭和31年に旧東牟婁町、明神村、小川村、三美川村、七川村の1町4村の合併当時1万人の人口も、平成27年国勢調査では3,000人を切り大きく減少し、高齢化、高齢化が進む地域であるといえる。町内率約90%が森林で、夏場は一般に温暖な気候で海木が

成に富んでおり、貴重な市田川の産物としても知られている。市田川流域は、また豊かな観光資源にも恵まれており、温泉市田川を中心に温泉リゾートエリアとしても注目されている。

七川診療所は市田川の山麓部に所在する診療所であり、山麓部建設地の影響を受けている。診療科目は内科、整形外科であり、整形外科は毎週木曜日に和歌山市の角田整形外科の角田先生が診療をされています。また月曜日と金曜日には、市田町の七川という山麓地域への診療も行われている。

2. 実習内容

一日目の午前中は、七川診療所内の施設案内と、市田町・七川地域についての話を聞いた。地域の特色や人口の現状などについて詳しく教えて頂き、市田川に来たばかりの年には地域の状況がよく分かり、実習前に市田川という地域について学ぶことができた。そして施設見学では診療所の敷地などや、整形外科診療を視察に見学した。見学中でも印象的だったのが年寄者の年齢である。患者のほとんどが80歳以上の高齢の方ばかりだった。さらに聞いたのが、高齢でもとても元気だったことだ。日々のボリボリで見る高齢者たちと比較して非常に若々しく、笑顔が溢れていた。

午後からは、南井先生の注射に同行した。車で注射だったが、一人の患者のお母様が南井先生の2分山道まで送って必要があり、山麓部に住む高齢の方々に比べて注射はかからない貴重な診療方法であると実感した。注射ではただ針を刺すだけでなく、患者やご家族と会話し、その不安な気持ちなどからあなたに何を話さなければいいか入念に確認されていて、南井先生や看護師の方の入念な配りに感銘を受けた。

二日目は南井先生の内科診療の見学をした。一日目の整形外科の診療とは違いさまざまな患者の患者さんが来て、診療や薬物投与が忙しかった。必要であればレントゲン撮影、血液検査をしたりと、先生の細やかな対応や判断が目の前でたくさんなされていたのがとても印象に残っていて、診療所で働く医師として必要な技術の裏面を実感した。

3. 考察

今回の実習でもっとも印象的だったのは、医療者の皆さんと患者さんの関係性の豊かさだ。診療の見学をしていると、どの患者さんもお互い手や薬物の贈り合いなどでも行われていて、相互関係がしっかりと築かれていることがとても印象的だった。再診が促さなくても自然に再診が来ることが多いのが医療者の良き配慮や患者の方々の理解があることが、和歌山県立医科大学で実習に来た一人として、非常に貴重な経験ができた。病院内にいるだけでは感じることができない、和歌山の様々な地域医療の一面を、身をもって体験することができ、医師になる前にもっと良い経験だったと思う。この経験をこれからの学生生活で、そして医師になってから活かしていけるよう日々努力したいと思う。

4. 謝辞

最後になりましたが、今回の実習を計画し、受け入れて下さった七川診療所の皆様、実習を企画して下さった皆様、また、ご協力頂いた施設の皆様にも感謝申し上げます。実習中は公共交通機関では移動が難しかったので、診療所の皆さんには送迎などのサポートも行って頂き、お忙しい中大変お世話になりました。この2日間の実習で様々な体験をさせていただきました。和歌山で実習になることについて改めて真剣に考え、やる気を持つことができました。本当にありがとうございました。

2018年度夏季実習の変更

✓参加型実習への変革を受けて、2018年は参加者数を増やし、より自主的で充実した実習にするために2017年の内容に加えてさらに2点を変更した。

1. 県外実習の実施

- 1-2年生 保健所実習(1日間)
- 3-4年生 県内診療所病院実習(2日間)
- 5年生 県外病院実習(3日間)

今年は山口県下関市豊田病院、自治医科大学病院と自治医科大学卒業生の勤務する病院での実習を行う。

2018年度夏季実習の変更

2. 今まででは日程を8月中旬の木曜金曜と固定していたが、学生のカリキュラムや課外活動を考慮し、複数の選択肢を用意して、学生自身が行先や日程を決定する。

- ・1-2年生 保健所実習(1日間)

今年度は7月24日、26日、31日に実施

- ・3-4年生 県内診療所病院実習(2日間)

今年度は8月8-9日、16-17日、23-24日に実施

- ・5年生 県外病院実習(3日間)

各学生が病院に直接連絡をとり任意の3日間で行う。

以上の変更により、2018年は対象学生全員(100%)が夏季実習に参加予定である。

結語

- ✓2017年の和歌山県地域枠の夏季実習は公共交通機関使用、報告書、お礼状作成などで、学生主体の参加型実習に変革することができた。
- ✓2018年は県外実習や日程調整などで、さらなる参加率の上昇と実習への積極性を図る。